

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：都市・地域整備局街路課

担当課長名：齊藤 親

事業名	市川都市計画道路3・4・18号浦安鎌ヶ谷線ほか1線	事業区分	街路事業	事業主体	市川市
起終点	八幡1丁目583番1地先（国道14号）～東菅野5丁目2096番10地先 （本北方橋取付区間）			延長	1.88km
事業概要	都市計画道路3・4・18号浦安鎌ヶ谷線ほか1線は浦安市境から鎌ヶ谷市境まで南北に縦断する幹線道路であり、全体11,780mのうち未整備区間1,580mとすりつけ区間100m及び交差する都市計画道路の拡幅区間の200mを整備し、市内の交通渋滞の緩和を図るとともに、周辺地域の都市基盤整備を促進するものである。				
H7年度事業化	S33年度都市計画決定 （H7年度変更）	H7年度用地着手	H17年度工事着手		
全体事業費	220 億円	事業進捗率	57.8%	供用済延長	10.2km
計画交通量	9,800台/日				
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体) 1.73	総費用 (事業全体) 213.75 億円 事業費：213.64億円 維持管理費：0.11億円	総便益 (事業全体) 368.74億円 走行時間短縮便益：358.57 億円 走行費用減少便益：8.57 億円 交通事故減少便益：1.61 億円	基準年	平成15年
感度分析の結果					
事業の効果等 市の南北を縦断する幹線道路となり、快適で安全な歩行、自転車通路や歩道の確保、下水道市川幹線、ガス水道の収容、迅速な救急活動に寄与する。					
関係する地方公共団体等の意見					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業を早急に完成させてほしいという声が多くなり、当該路線に対する期待、必要性が高まっている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地買収は全体の約9割を完了しているが、残りの用地確保を進めている。京成電鉄のアンダーパス、真間川、大柏川の橋梁工事がこれから予定されている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地買収の難航により事業の完成年度は今のところ未定である。（供用予定は平成23年）					
施設の構造や工法の変更等					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	この様式に記載した各事項の内容により今後においても事業を継続する必要があるため。				
事業概要図	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>平 面 図</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>標準断面図</p> </div> </div>				

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。